

第 20 回 農業高等学校生意見文全国コンクール審査講評

審査委員長 上地 由朗

農業高等学校生意見文コンクールは、これからの日本農業を持続、発展させる担い手となる高校生が、農業および農業にかかわる諸問題や事象、さらにはいろいろな体験を通じて感じた思いを意見文にまとめることにより、農業に対する意識を高め、高等学校での生活や学習を一層充実させることを期待するものです。高校生にとって非常に意義深い取り組みなので、日本農業教育学会主催としてさらに充実させ、大きく飛躍させたいと考えています。

今年度で 20 回を迎えました本コンクールには、全国の日本学校農業クラブ (FFJ) に加盟している農業高校および農業関連学科に所属する FFJ 会員の高校生から 18 件の応募がありました。応募された意見文は、それぞれの農業体験や実習、実践活動、研究開発や実験などに関するもので、農や食への興味・関心、地域貢献や自分たちの暮らし、将来の夢などについて、高校生らしく自分の気持ちを素直に表現した良作揃いでした。また、自らが積極的に考え、行動し、その成果を自分なりに工夫して取りまとめた意見文も多くみられました。これらの意見文について、課題と内容の整合性、文章の論理性、説得力、さらには農業高校生としての自覚と内容の適性、意見の妥当性や建設性、将来への熱意など、幅広い観点から厳正な審査を行ないました。その結果、1 名の作品を最優秀賞、3 名の作品を優秀賞と決定いたしました。

最優秀賞に選ばれました新井心優さんの『明日へ繋げ笑顔のバトン～農業が広げる世界～』は、家庭での奥深い愛情が感じられる体験が起点となった食と農の活動に関するもので、その活動を通じて、農業の果たす大きな役割を強く主張したすぐれた意見文でした。優秀賞に選出された小林千笑さんの『サクラで繋ぐ未来』は、日本国内にあるいろいろな品種を持続させる活動を積極的に進めようとする意欲が感じられる意見文で、根気強く研究を続けて得られた成果や明確な目的を持った活動内容がよく表されていました。白坂光太郎さんの『祖父から受け継ぐ「美人な宝物」』では、農業のスペシャリストとして、祖父から宝物を受け継ぎ、農園を発展させることによって、地域活性化に貢献するための具体的な方策について提示されていて、真摯に取り組もうとする姿勢が高く評価されます。綿貫静音さんの『守りたい！広めたい！群馬の郷土料理』は、地域に根ざした食を守ることは地域を守ることに繋がるという観点から、郷土料理を守ることによって地域に伝わる文化も継承していきたいという願いが込められた作品で、身近なところから自分の力で地域を活性化させようという活動がよく描かれています。

いずれの意見文も、いろいろな活動を通じてそれぞれの努力や意欲が感じられ、それぞれの取り組みへの強い熱意にあふれたすばらしい意見文でした。

今回応募された意見文には、共同研究の内容でありながら、役割分担や寄与度が不明瞭であったり、共同研究者に対する謝意が伝わってこなかったり、指導教員の考えが入りすぎていたと思われる意見文もありましたが、これからも今までと同様に、「自らが考え、行動し、取りまとめる」という本コンクールの原点に立ち、厳正に審査を行なってまいります。

最後に、本コンクールがめでたく記念すべき20回を迎えましたことに対し、ご協力、ご尽力をいただきました皆様に心より御礼申し上げます。